

# みなとへ かえるくらし。

佐賀県唐津市にある唐津港は、石炭積み出し港としての機能を失い、人々の港への往来が減り、かつての賑わいを失いつつある。

将来、唐津城から東港までをつなぐ海辺のプロムナードが計画されており、その中心に位置する玄海ヤンマー倉庫及びその周辺を、地域住民の生活の場としての新たな「まち」として活用できるようにリデザインする。

地元住民だけでなく、観光で訪れた人々とが一緒になって触れ合う事の出来る空間を実現し、人々がもう一度みなとへ”かえってくる”ことを目標とする。

デザインするうえでは、将来構想を踏まえて対象地周辺を段階的（5年後・10年後・20年後）に捉えた。また、海岸線と平行に機能的に異なる4つの空間軸を設定している。

具体的には、「水際の軸」は快適なプロムナード空間、「憩いの軸」では友人との会話や散歩を楽しむ空間、さらに「交流の軸」はヤンマー倉庫へ歩むにつれてコミュニケーションを図れる空間、最後に「賑わいの軸」では将来メインストリートになる空間を提唱した。

## ◆概要

佐賀県唐津市は、水産、農業に関する食品加工業を主な産業とする佐賀県第二の都市である。平成17年の大合併（7町村合併）により人口規模は合併前の約2倍の13万人、面積は約2倍の424.53kmとなった。市街地は唐津湾に注ぐ松浦川河口を中心に形成されており、周囲を玄界灘、虹の松原、鏡山、七ツ釜、神集島等の雄大な自然環境に囲まれている。唐津市の港湾計画は、新たな段階を迎えた唐津港の多様な要請に対応していくため、「唐津みなとまちづくり懇話会」が取りまとめた「地域素案」を反映している。

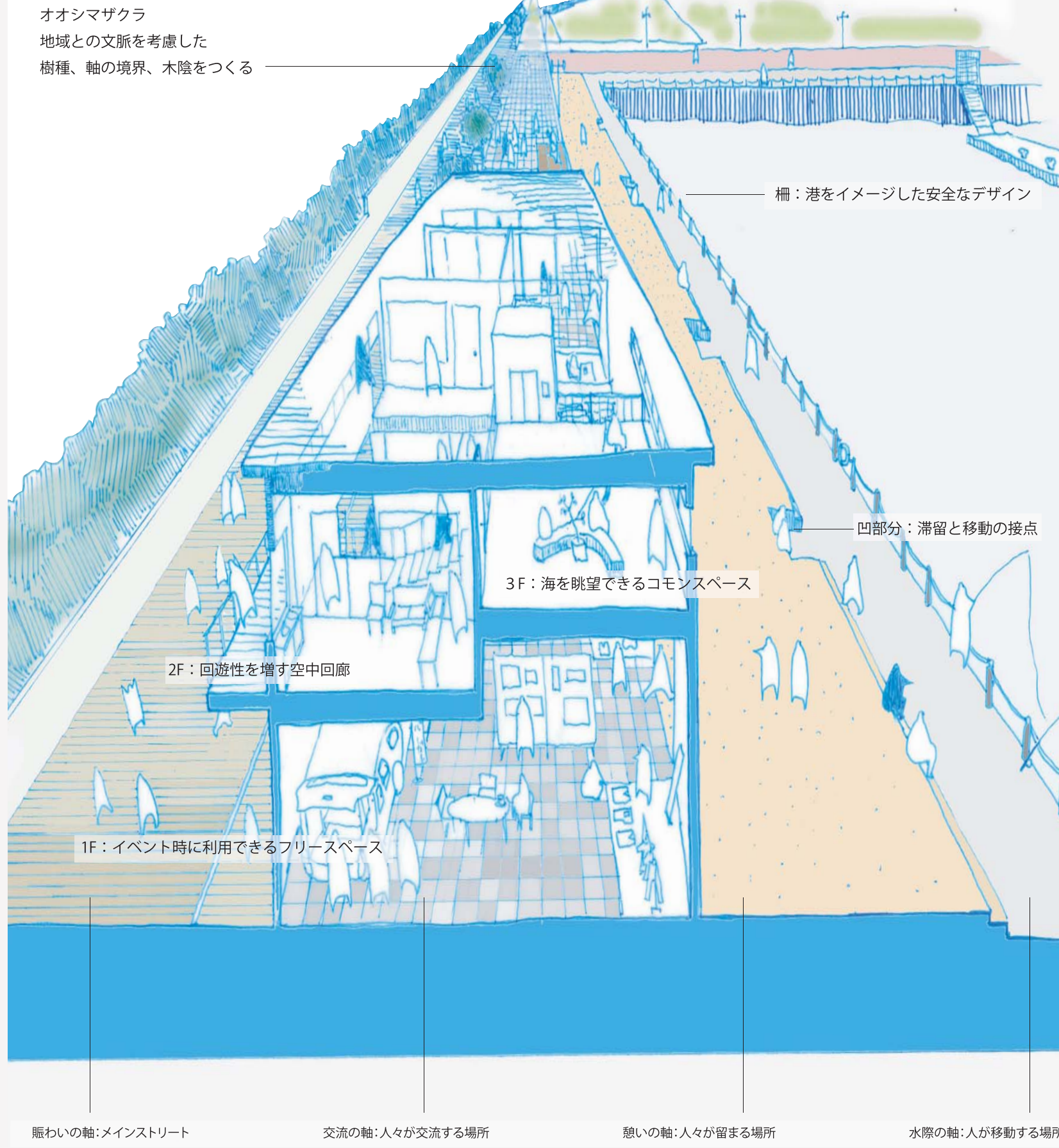
その港湾計画の基本的な方向性を失わないようにしつつも、みなとの中心となる旧玄海ヤンマー倉庫を新たにデザインしなおすことで、新たなみなとまちづくりの拠点を創出する。



設計にあたって、まず、回数を重ねて対象地およびその周辺の現地調査や、大島地区、妙見地区、西唐津駅周辺の地区の地域住民の方々を対象としてヒアリング調査を行うことにより、対象場所の特性を検索した。その結果、将来構想をふまえ、

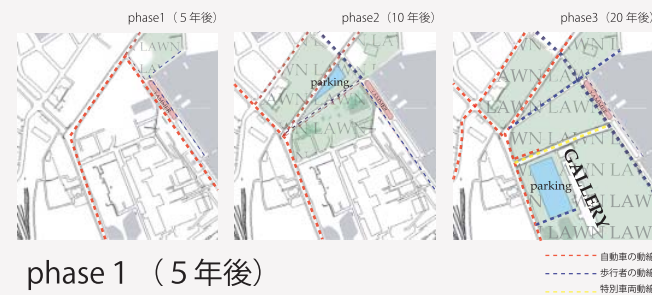
- ・時系列を段階的に3つに区別する（5年後、10年後、20年後）
- ・海岸線と平行に機能的に異なる4つの空間軸を設定する。

ことを計画した。



## ◆デザインコンセプト1

### 時系列を分けて考え、デザインする



#### phase 1（5年後）

アクセシビリティを確保するために、駐車場はヤンマー倉庫近くの空き地に設ける。同時に、海側の通りは歩行者専用道路とし、車に乗らない人々の安全は確保される。民族資料館が移転予定であることから、そこからの眺望を考慮してオープンスペースの植栽配置を行う。

#### phase 2（10年後）

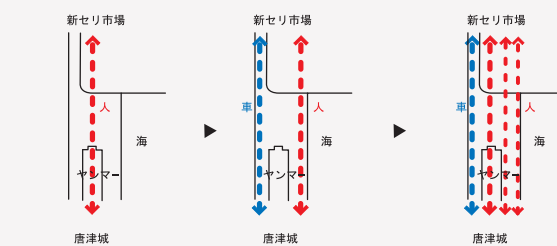
将来構想の都市計画にほぼ従っていると仮定して、それを見越したデザインを、今において考慮しておく必要がある。都市構想に従って、車が通っていた旧玄海ヤンマー倉庫の九州電力火力発電所側の舗装はウッドデッキとなり、歩行者にとっては以前より安全で快適な環境となる。計画におけるデザインの変化に柔軟に対応するために、現段階でウッドデッキを採用する。また、メインストリート空間に対して直角の軸に新しい通りができる。それによりうまれる新たなアクティビティに対応して、軸の延長線が柔軟に機能し、新たな“みなとまち”としての可能性が生まれる。

#### phase 3（20年後）

九州電力火力発電所敷地の塀が取り除かれることに伴って、パーキングの位置が変わる。火力発電所跡地は美術館として利用される計画がたてられているので、それに対応した施設としてヤンマー倉庫が機能する。そのためにも、いかなる時系列にも対応できるような、フレキシブルなデザインが求められる。よって、人々の行動を規定することのないような広がりのあるものを意識してつくられている。また、倉庫正面側付近にあった駐車場は緑地となり、歩行者がより安全な場所として対象地が機能する。

## ◆デザインコンセプト2

### 4つの空間軸を特徴づけてデザインする



本設計対象地は、将来新セリ市場と唐津城をつなぐプロムナードの軸となる。

最初に、安心して快適な公共空間を目指して、動線計画を考慮した。自動車が行く動線と歩行者が歩く動線とに分離すると、それに伴って、二本の動線に挟まれている旧玄海ヤンマー倉庫が機能する。また、将来の港湾計画に従って、倉庫を挟む二本の動線に加えて、倉庫北西側に横軸の新たな動線が生まれる。

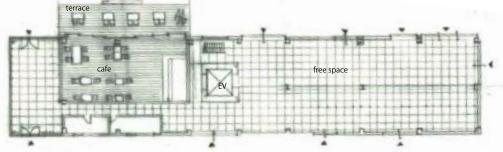
2つに分けられた動線を設計すると考える時に、より具体的に、4つの空間軸に区別して特徴づけを行う。「水際の軸」は、移動スピードのばらつきが小さく、大島、鳥島等の海側への眺望を意識しながら通行する為に利用される空間、「憩いの軸」はゆっくり歩いたり、喋ったり、移動スピードのばらつきが大きい空間、「賑わいの軸」は倉庫内で休憩をしたり、倉庫前のオープンスペースで地域イベントに参加したりするストップの空間、メインストリートとなる「賑わいの軸」は歩行者に限らず、車が通行することもあり、時には特別車両やヨットが倉庫内に搬入物を輸送することも考えられ、移動スピードのばらつきは大きいとした。



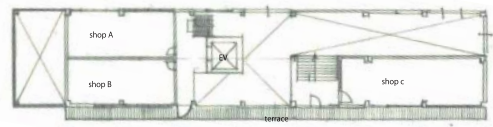


賑わいの軸：メインストリート

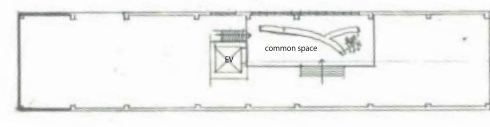
## 平面図



First Floor Plan



Second Floor Plan



Third Floor Plan

## ◆具体的なデザイン

以上に基づき、行われた具体的なデザインを以下、4つの項目に分けて整理している。

①歩行者専用道路を海側、車両が通ることの出来る道は九州電力発電所側と、空間的分離を行っている。また、メインストリート空間の舗装は将来の都市構想に従い、舗装にウッドデッキを提案することによって、制限こそないにしろ車両のスピードが抑制されるようなデザインになっている。

「交流の軸」のレイヤー上には、10年後、20年後となるにしたがって、メインストリートは車両制限がかかり、歩行者専用道路として機能する。駐車場は空間軸の延長上に配置され、少なくとも10年後には駐車スペースは歩行者用の緑地スペースへと変化する。

浮き桟橋の配置については、既存の西唐津東港の記憶を継承するため、位置は固定する。

②ヤンマー倉庫前のオープンスペースには極力、そこを利用する人の行動を規定するようなものは配置しないようにした。建築レイヤーとメインストリートレイヤーの境界線は、ヤンマー倉庫がつくる日陰の延長として大島桜を配置し、木陰をつくることで広場空間のユーザビリティを向上させた。

将来的には多くの市民でにぎわうことも考慮に入れて、建築レイヤー上にある、倉庫と倉庫正面側のオープンスペースは移動行為を行わない静的空間として機能させる。

③既存倉庫の外部空間と内部空間の繋ぎ方について、互いに人々のアクティビティが見えるように玄海ヤンマー倉庫の正面側ファサードをガラスカーテンウォールとした。外部からの北風を防ぐ構造になっており、施設が快適に利用される。将来構想における九州電力発電所側の敷地変化に対応するため、既存の倉庫に設けられた開口部に加えて、新たに開口部を倉庫正面側の両側面に設けることで、ヤンマー内部と外部の各レイヤー間における人々の動きが滲みだし、多様なアクティビティの創出を図っている。

加えて、地域の人々がイベントやギャラリーなどの使い方にも対応できるように、自動車が入れる大きさの開口部を採用した。

④主に釣りをを行う人々やプロムナードを移動する人たちの安全で快適な環境を確保するためにも、

- ・ボラードを護岸に設置することにより、海への転落を防ぐ。
- ・夜間の照明を設置する。
- ・救命浮き輪を設置する。

地域イベントによって桟橋付近に唐津の貴重な観光資源であるヨットを留めてもらい、水辺との関連性を持たせる。

以上によって、ここ、唐津東港において、人間味あふれる港のある生活が営まれる。時系列を巧みに踏まえて、「余白のあるデザイン」を考えることによって、サステナブルな環境が実現される。それは、完全に放置してデザインを行わないことではなく、その場所の持つ歴史と地理的イメージ、風景的体験、さまざまなことを考慮に入れながらも、4つの軸として空間を特徴づけたことによって、地域住民の方々の唐津の記憶が継承されながらも、未来における唐津東港の“可能性をデザインする”ことに繋がっている。



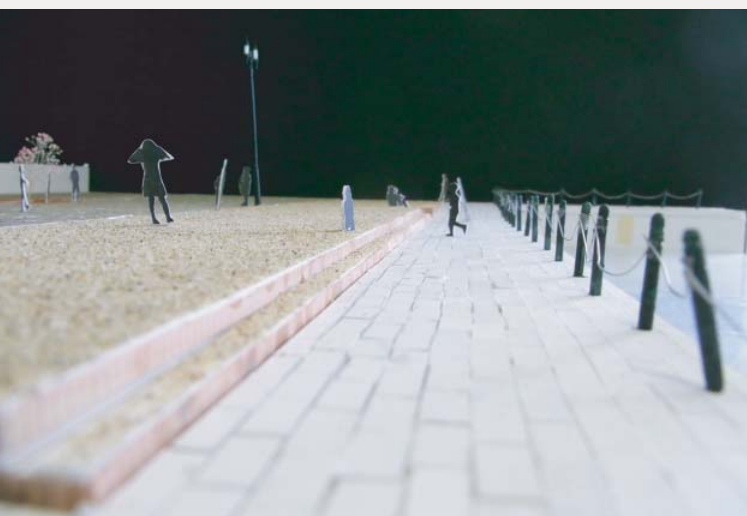
交流の軸：人々が交流する場所



デザイン模型全体写真



憩いの軸：人々が留まる場所



水際の軸：人が移動する場所

